

〔重修本草綱目啓蒙〕八山草 杜衡 カン。ア。フ。ヒ。チャウ。ジヤノ。カマ。越後 オケ。バ。ナ。同。上。チヤガ

マノキ カゲノア。フ。ヒ。州共ニ鞍馬城 サイ。シ。ン。ア。フ。ヒ。種樹 トキハ。グ。サ。同。上。イ。シ。バ。サ。ミ。勢州

ツボハナ 一名檀香香譜同名 金鎖匙附方山豆根出 馬蹄草 同。上。杜衡葵爾雅 馬蹄莘

赤水 衡文衡集 衡同 土杏正字通 鉞兒草大倉 杜細辛集解

山ニ多クアリ、陰地ニ生ズ、葉圓ニ末尖リ、莖ノ附クトコロカケテ馬蹄ノ形ノ如シ、大サ二三寸形

圓ナルモノアリ、長キモノアリ、又苦蕎麥ソウベ葉ノ如キモノアリ、質皆厚シ、冬ヲ經テ枯レズ、一カブニ

葉叢生ス、莖紫黑色、葉ニ白斑文アリ、其斑數品アリ、葉中左右相對シテ白キ者アリ、中央ノミ白キ

者アリ、葉後白キモノアリ、中央一線白キ者アリ、滿葉細白條網ノ如キ者アリ、又全ク斑ナキ者ア

リ、是ヲ種樹家ニテ細辛ト呼ハ誤ナリ、細辛ハ葉薄シ、杜衡ハ三四月花ヲ開ク、紫黑色、此花ヲ鹽藏

ニシテスイモノニス、味淡シ、花ノ形釜ノ如クシテ上ニ三瓣アリ、根ハ細辛ヨリ粗クシテ臊氣ア

リ、コレヲ藥舖ニテ近江細辛又土細辛ト名ケテ、細辛ニ充テ貨ル、眞ノ細辛ニアラズ、一種葉小ニ

シテ香氣多キ者アリ、是集解所謂其臭如麝蕪ト云モノナリ、加州ニ産ス、大サ八分許ニシテ圓ク

扁シ、コレヲ錢葉ノ杜衡ト云フ、世ニ錢細辛ト云ハ非ナリ、

〔佐渡志五物産〕杜衡 方言チャウジヤノカマ 山中ニアリ

〔倭訓前編阿編二〕あふひ 葵をいふ、中 賀茂祭に用らる、あふひは、訓義同じく物異れり、二葉草

とも両葉草ともいへり、杜衡を杜葵ともいふ、其類也、

〔兼載雜談〕一賀茂祭に出る葵は二葉也、そばの葉に似たり、又世上に多き花の紅にさく葵も用

ゆるなり、

葵草照日は神の心かまかけさす方に先むかふらん

此歌にてみれば二葉の葵にかぎらざるなり、この歌は葵花向陽の心なり、

二葉葵